

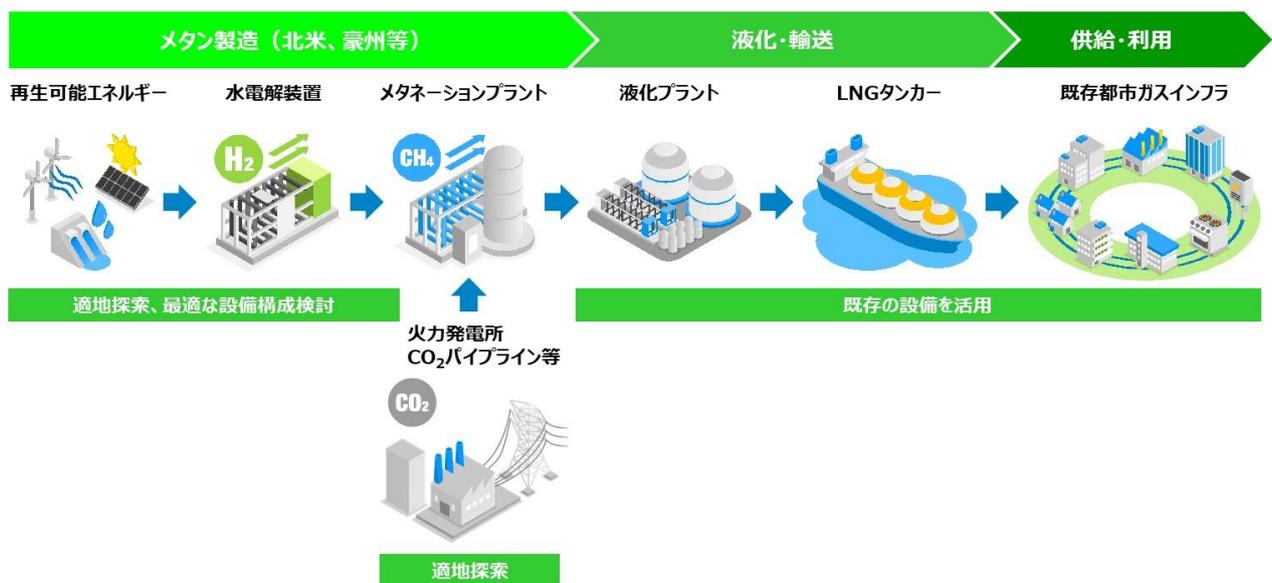
カーボンニュートラルメタンのサプライチェーン構築に向けた 北米、豪州等における事業可能性調査の開始について

東京ガス株式会社（社長：内田 高史、以下「東京ガス」）と三菱商事株式会社（社長：垣内威彦、以下「三菱商事」）は、このたび、都市ガスの脱炭素化に資するカーボンニュートラルメタンの導入を目指し、北米、豪州、中東、アジア等 LNG 輸出国における再生可能エネルギー由来のグリーン水素と CO₂ から製造するメタン（以下「合成メタン」）について、そのサプライチェーン構築に関する事業可能性調査*1（以下「本調査」）を共同で開始することに合意しました。

日本政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」実現には、熱需要の脱炭素化を進めることが重要であり、第6次エネルギー基本計画には、天然ガスの代替として合成メタンを活用することがカーボンニュートラル化を目指す手段の一つとして掲げられています。

現在、官民が連携して、既存インフラの有効活用に向けたメタネーションに係る技術開発、実証試験等を進めていますが、将来的なカーボンニュートラルメタン導入の実現には、海外で安価な再生可能エネルギー由来のグリーン水素と現地で回収した CO₂ から合成メタンを製造し、既存インフラを利用して液化・輸送する、サプライチェーン全体の構築が必要です。

<今後検討を進めるカーボンニュートラルメタンのサプライチェーン>



本調査では、東京ガスの水素・メタネーションに関する技術、LNG バリューチェーンの構築に取り組んできた知見と、三菱商事の海外 LNG プロジェクトや再生可能エネルギー等のエネルギービジネスでの知見を掛け合わせ、最適な設備構成、サプライチェーン構築を検討します。

具体的には、北米、豪州等を中心に、再生可能エネルギーや CO₂ の調達、水素や合成メタンの製造、液化・輸送までのサプライチェーン全体の課題を洗い出し、適地選定及び低コスト化調査を行います。将来的には、選定した適地における実証試験、日本へのカーボンニュートラルメタンの導入を視野に取り組んでいきます。

東京ガスは、グループ経営ビジョン「Compass2030」で「CO₂ ネット・ゼロへの挑戦」を掲げ、カーボンニュートラルメタンのサプライチェーン構築の早期実現を図り、日本政府が掲げる「2050 年カーボンニュートラル」に貢献することを目指します。

三菱商事は、エネルギーの安定供給責任を果たしつつ、再生可能エネルギー拡大、次世代エネルギーサプライチェーン構築を通じて低・脱炭素社会の実現に貢献することを目指します。

上記をビジョンとして掲げる二社は、カーボンニュートラルメタンの導入拡大による LNG や都市ガスの脱炭素化の早期実現に向けて取り組んでまいります。

*1：本調査では、合成メタンのカーボンニュートラルに資する検討も実施予定。尚、輸送過程等のライフサイクル CO₂ を含むサプライチェーン全体のカーボンニュートラル化に向けては、本調査の対象外ではあるものの引き続き注視の上、順次検討を進める。

以上